

2026年3月2日発行

V05L23R1

# *ES/1 NEO*

*MF* シリーズ *CS* シリーズ

V05L23R1

Release News Letter

Performance Web Service

機能拡張

 株式会社 アイ・アイ・エム

## 改版履歴

日付	版数	内容
2026/03/02	1	V05L23R1 リリース

# 目次

第1章	Performance Web Service 共通	1
1.1.	既存機能の拡張	1
1.1.1.	jre のバージョンアップ	1
1.1.2.	Apache Tomcat のバージョンアップ	2
1.1.3.	Apache Log4j のバージョンアップ	3
第2章	変更一覧	4
2.1.	本リリースより、出力される値（数値／文字列）、表示の変更一覧	4
2.1.1.	変更一覧	4

# 第1章 Performance Web Service 共通

## 1.1. 既存機能の拡張

### 1.1.1. jre のバージョンアップ

分類		数値変更	表示変更	特記事項
新機能の提供	既存機能の拡張	-	-	-

#### ○概要

弊社製品で使用する JAVA(JRE)を、Oracle OpenJDK から Amazon Corretto 11 (LTS) に変更します。本リリースでは、バージョン 11.0.29.7.1 をバンドルします。

#### ○効果

JAVA に関する既知の脆弱性や不具合対応が適用され、より安全で安定した動作が可能となります。

#### ○詳細

弊社セキュリティポリシーにより、開発時点での最新 JRE を適用しております。

以下の製品が対象です。

- Performance Web Service
- Performance Web Service Maintenance
- Performance Web Service Uploader

### 1.1.2. Apache Tomcat のバージョンアップ

分類	数値変更	表示変更	特記事項
新機能の提供 既存機能の拡張	-	-	-

#### ○概要

Performance Web Service で使用している Apache Tomcat のバージョンを 9.0.112 に変更しました。

#### ○効果

Apache Tomcat 9.0.112 にバージョンアップすることにより、前バージョンまで使用していた Apache Tomcat 9.0.82 に存在した脆弱性を回避し、よりセキュアな環境を提供することが可能になりました。

#### ○使用方法

特別な操作は必要ありません。インストールにより、9.0.112 に入れ替わります。

#### ○注意

ES/1 をバージョンアップインストールすると、Performance Web Service が使用するポート番号が設定されている Apache Tomcat の設定ファイル「server.xml」は初期化されます。そのため、ポート番号を任意に設定している場合は、バージョンアップ後に再設定してください。

#### 設定手順

1. 「iim pws tomcat」サービスを停止します。
2. 設定ファイルを編集します。
  - ・設定ファイル  
 \<CS シリーズインストールフォルダ>\IIM\PWS\Server\Tomcat\conf\server.xml
  - ・ポート番号設定箇所  
 <Connector>タブのポート番号を変更します。

```

<Connector port="8080" protocol="HTTP/1.1"
            connectionTimeout="20000"
            redirectPort="8443" />
```

3. 「iim pws tomcat」サービスを開始します。

#### ○備考

Apache Tomcat のバージョンを 9.0.112 に変更することにより、出力されるログファイルの種類、名前に変更はありません。

### 1.1.3. Apache Log4j のバージョンアップ

分類	数値変更	表示変更	特記事項
新機能の提供 既存機能の拡	—	—	—

#### ○概要

弊社製品で使用する Apache Log4j のバージョンを、2.25.2 に変更しました。

#### ○効果

Apache Log4j に関する既知の脆弱性や不具合対応が適用され、より安全で安定した動作が可能となります。

#### ○詳細

弊社製品では、ログ出力処理において一部で Log4j 1 系 API を利用していました。

本リリースより、Log4j 1 系 API による呼び出しを Log4j 2 系で扱えるように変換する互換レイヤ (log4j-1.2-api) を採用し、ログ処理の実装部分 (log4j-core) については Log4j 2 系の実装コアへ差し替えました。

#### ①Log4j 2 系ライブラリの配布

Log4j 2 系ライブラリをリネームして配布します。

配布ファイル	log4j 2 系ライブラリ	説明
log4j.jar (既存ファイルの置換)	log4j-api-2.25.2.jar	アプリケーションからの呼び出しを受け付けるライブラリ
log4j-1.2-api.jar (新規に配布するファイル)	log4j-1.2-api-2.25.2.jar	Log4j 1 系 API を Log4j 2 系で利用するための互換レイヤ
log4j-core.jar (新規に配布するファイル)	log4j-core-2.25.2.jar	Log4j 2 系としてログ処理を行う実装コア

#### ②log 出力設定ファイルの差し替え

Log4j 1 系と 2 系では設定ファイルのフォーマットが異なるため、これまでの log4j.properties に代えて、Log4j 2 系形式の log4j2.properties を新たに配布します。

#### ・対象製品

- Performance Web Service
- Performance Web Service Maintenance
- Performance Web Service Uploader

## 第2章 変更一覧

### 2.1. 本リリースより、出力される値（数値／文字列）、表示の変更一覧

#### 2.1.1. 変更一覧

数値変更	表示変更	プロダクト	内容
-	-	Performance Web Service 共通	jre のバージョンアップ
-	-	Performance Web Service 共通	Apache Tomcat のバージョンアップ
-	-	Performance Web Service 共通	Apache Log4j のバージョンアップ

数値変更 : 本バージョンの適用により、出力される値（数値/文字列）に変更がある場合に●が付きます。

表示変更 : 新規項目追加等により、レイアウトが変更した場合に●が付きます。